保健室

浜松市立北浜北小学校

養護教諭　金指　美加

本校は、全校641名、学級数24学級の小学校です。学校教育目標の「夢に向かってがんばる子」の実現に向け、「にこにこ　はきはき　ぐんぐん」を合言葉に全職員で教育活動に取り組んでいます。

昨年度本校は、創立40周年を迎えました。「創立40周年記念の運動会」、「創立40周年記念の学習発表会」など節目となる年の各行事を盛り上げるため、子どもたちは目標に向かって一生懸命取り組みをし、たくさんの輝く姿が見られました。

子どもたちは、素直で人なつこく、目標に向かって努力ができる子が多くいます。しかしその反面、保健室の来室状況をみていると、睡眠不足や排便の習慣が確立されていないために、頭痛や腹痛を訴えての来室が多くみられます。また自己肯定感が低かったり、友達との関わりがうまくいかなかったりして、心的要因から身体的な不調を訴えて来室する子どもも多い傾向にあります。このような実態から保健室では、「基本的生活習慣を身に付ける」「自他を大切にする心を育てる」ことを重点目標としています。

基本的生活習慣の定着のために、学期ごとに1回元気チェック(生活習慣チェック)を行っています。結果を見ると、子どもたちは習い事などで忙しく、早寝早起きの目標を達成できている子は40％ほどです。今後は、保健だよりを活用した保健指導を行ったり、家庭の協力を得るために積極的に呼びかけを行ったりしていきたいと考えています。

心が元気になるための活動としては、浜松市で行っている学校保健週間のテーマを「大好きぽくわたし・大好きみんな」と設定し、学校と家庭で取り組みを行いました。学校では、校内に貼られた5つのほかほか言葉を探して元気が出るシールをもらう、「ほかほか言葉ラリー」を児童健康委員会主催で行いました。あたたかい言葉かけをしたり、友達と協力し合って楽しそうに活動したりする姿が見られました。家庭では、「家族でほめほめ大作戦」を行い、普段思っていても、なかなか伝えられないお互いの良いところや感謝の気持ちを家族で伝え合うことができました。感想には、「自分にこんないいところがあるとは思っていなかったので、うれしかった。」「感謝の言葉はどれもうれしかった。家族の中でも毎日の思いやりを忘れずに過ごしたい。」などとあり、家族の絆を深める良い機会になったのではないかと思います。

今後も引き続き、子どもたちが心も体も元気いっぱいでいられるよう、保健室から支援をしていきたいと考えます。また、私自身これからも子どもたちの笑顔のために日々精進していきたいと思います。

磐田市立南部中学校

養護教諭　太田美由紀

本校は生徒数491人、学級数18の中規模中学校です。学校教育目標は「自ら学び共に生きる生徒」、保健目標は「正しい健康観を持ち、自ら健康的な生活ができる」です。大多数の生徒は素直で真面目、落ち着いて学習に取り組み、行事や部活動に燃える学校生活を送っていますが、積極性や向上心が乏しいと思われる生徒もいます。コミュニケーション能力の向上が課題のひとつとしてあげられますし、人間関係の悩みなどから体調不良を訴え保健室を利用する生徒も見られました。

私は永年の小学校勤務から今年度初めて中学校勤務になりました。私自身が新しい環境と人間関係の中で、どのような保健室経営をすべきか悩みました。そこで、様々な悩みを持って来室する生徒が、クールダウンや話をする場所、心の元気を回復する場所として利用できる保健室を目指して、保健室経営をしています。

保健室には数派なソファーセットがあるのですが、赴任当初は入り口から丸見えなのが気になりました。そこで、ソファーの近くに観葉植物を置き、片付けてあった衝立を引っ張り出して軽い目隠しとなるように、くの字型に立てました。完全に隠れていると安全上良くないので、入り口や生徒の動線からは隠れていますが、執務机から覗くと見える程度にしました。観葉植物がアクセントで、目と心の癒しになっています。お陰で生徒の落ち着ける場所、ちょっとした相談コーナー兼クールダウンコーナーになり、プライバシーの配慮もできて生徒も話しやすくて居やすい場所になりました。ソファーは生徒が座って少し休憩したり、早退で保護者を待つ間に会話する場となったりと、大活躍しています。

保健室の掲示物も明るい色合いの柔らかい感じのものに貼り変えました。かわいいイラストで小学生向けかなとも思いましたが、保健室という場所を考えてよしとしました。

また、養護教諭自身も生徒にとっては保健室の中にある環境の一部と考えて、いつも柔らかな雰囲気でいるよう笑顔を忘れないように心がけています。しかし、これは難しいときが多々あり、イライラが募って生徒に伝わってしまい、反省することもしばしばあります。

初めての中学校勤務から早1年になります。今でも生徒の対応は「これでいいのか？」と自問自答する毎日ですが、これからも生徒の心身の健康づくりに活用できる保健室を目指して日々努力したいと思います。

げんきな事業所

保護者の元気が子どもを育てる保育園

社会福祉法人　みんなの森福祉会

どんぐり保育園（浜松市東区中郡町）
くすのき保育園（浜松市浜北区北浜高畑）

（浜松市東区中郡町1872番地）

初めに

今日は、「保護者の元気が子どもを育てる保育園」と題して、社会福祉法人　みんなの森福祉会が運営する2つの保育園について保護者の元気度を紹介します。

旧友の活躍を喜ぶ仲間

「どんぐりの子たちの作文が毎年何人も文集はままつに載るんですよね」と6年生になった卒園児のお父さんが伝えてくれました。毎年20人が10校ほどの小学校に分かれ入学しますが、こうして文集で見つけた旧友の名前をとても誇らしく思い元気をもらうようです。子どもの表現力は何より好奇心旺盛に仲間と外で遊び呆ける事、そして絵本をたっぷり読んでもらい、話し合いも存分にして言葉の力を育てることが土壌だと思います。そしてそんな子どもを支える裏には、元気な親仲間の存在が重要です。自分の子どものことはさておき、よその子の近況を教えてくれる素敵な親御さんたちが。

親が繋がる保育園

どんぐり保育園は浜松市中郡地区に誕生し昨年10周年を迎えました。「記念の集いを是非とも自分たちで」と申し出てくださったのは開園時のお父さんたちです。当日は中学生になった卒園児が司会を務め、手品や演奏など特技を披露し、大同窓会になりました。浜松市の待機児解消計画で出来た園ですが、創立当時から「親がつながる保育園」をめざして来ました。保育施設不足のこの地区は歴史的に地区外の園に通うことが多く、親の繋がりの希薄さが、中学生の荒れや小学生の不登校の一因になっているのではと思ったのです。開園して初めての草取りに集まったお父さんたちで「夏祭りでマツケンサンバを」と盛り上がり、手作りのちょんまげにキンキラの装束で初ステージを飾りました。これを機に父親の和太鼓チームが誕生し、夏祭りや運動会で雄姿を披露。行事には欠かせない出し物として定着しています。クラス懇談会や親睦会も活発で、卒園後も同窓会が行われています。文集の話はこんな繋がりが生んだ朗報でした。

第二園誕生の陰の力

この保護者パワーは第二園であるくすのき保育園の開園にも発揮されました。市への応募に当たり、一夜にして20名もの親御さんが「どんぐりのような園を作ってください」とそれぞれの思いを込めた言葉で要望書を書いて下さったのです。こうして一昨年、浜北区に「くすのき保育園」が誕生しました。

ママさん吹奏楽部誕生

どんぐりの保護者のバトンを受け、くすのき保育園では「ママさん吹奏楽部」が産声を上げました。さすが音楽の街。かつての吹奏楽部員がなんと10名以上いたのです。初舞台は2月の生活発表会。保護者の活躍の場ができると、親御さんの表情が和やかになります。これこそが子どもを健やかに育てる原動力です。保護者の繋がりで健やかな子どもたちが育っていくことを願っています。

くすのき保育園

どんぐり保育園

どんぐり保育園10周年

父たちの太鼓チーム

保育方針

1　生きる力を育む保育
自然とかかわり、仲間と時を忘れて遊ぶ中で生きる喜びを味わい、生きる力を育む保育を目指します。

2　違いを認め理解しあう障害児保育
ハンデイのある子との生活が当たり前の環境の中で、互いに自然なかかわりの中で保育を目指します。

3　育ちあう親仲間
保護者の自主活動の場を提供し親として育つことを支援します。